

— 第2章 —

優^〳柔^〳な 境界

くまくま園
伊勢堂岱遺跡
大太鼓の館



くまぐま園

取材二日目の朝、小雨が降るなか向かったのは北秋田市阿仁打当にある、熊の動物園「くまぐま園」。自然、人、熊をつなぐ環境学習の場としてさまざまな情報を発信している施設です。現在はツキノワグマ44頭、ヒグマ15頭を飼育しており、熊の観察や餌やりが楽しめます。

「くまぐま園」園長で獣医師の小松武志さん（53歳）にお話を伺いました。

小松 この辺にるのはツキノワグマです。

高橋 おおっ！

小松 この子たちは年寄りで。だいたいの寿命が20年なんですよ。

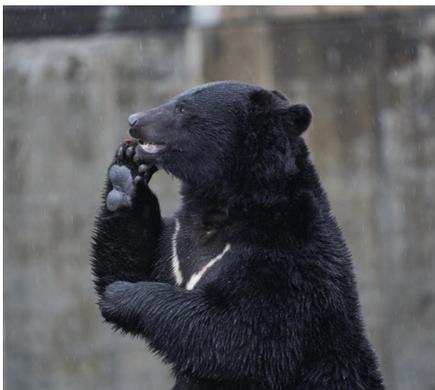
高橋 じゃあ20歳間近？

小松 そうですね。

高橋 若い熊たちと一緒にいるとしんどいんですか？

小松 オスとメスでも違いますけど、体力的に弱っているので、けんかしたときにすぐ負けちゃいますね。

高橋 熊のけんかは人間と違ってフィジカルなえげつない感じですか？



小松 熊は、けんかだけでなく遊ぶ場合も本気でやるので、いっさい手加減してくれない。

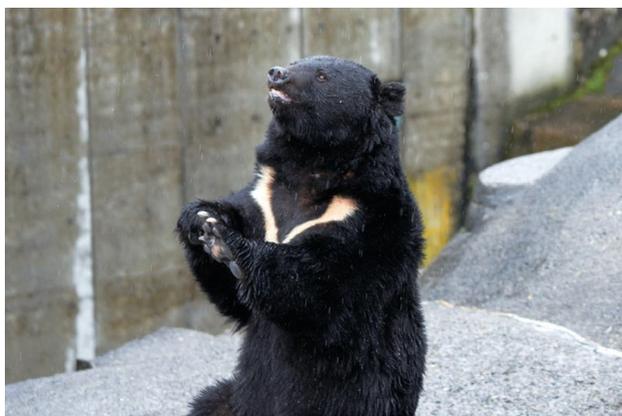
高橋 かわいいなかに、ちょいちょい恐ろしい話題が詰まっていますね。

小松 もともとこの辺りはマタギさんがある地域なので、有害駆除とかで親が獲られたりして、残されてしまった子熊を集めて餌い始めたのが始まりなんです。

高橋 へえ。あの仕草はなんですか？ エサちょうだい、みたいな？

小松 そうですね。おやつあげてみませんか？

高橋 いいんですか？



小松 ここにいるのがヒグマです。北海道にいるのもヒグマ。
 高橋 ヒグマのほうがデカいですね。ツキノワグマとは性格も違うんですか？
 小松 ヒグマのほうがちょっと荒いかな……。ツキノワグマは木に登るけど、ヒグマは木に登るのはあまり得意じゃない。
 高橋 へえ。
 小松 あと、ツキノワグマと違って、オスがけんかを始めると、ちょっと半端じゃないんです。
 高橋 半端じゃないっていうのは命懸けのけんかかっていうことですか？
 小松 パワーが違うから。



高橋 なるほど。東京に住んでいても秋田県の熊の話題、事件、事故を聞く機会が増えてきているような気がするんですけど。
 小松 増えてきてますね。今はほぼ秋田県全域に熊が出ていて。昔は山の中にいたといわれてたんですけど、今は家の裏にいるっていうぐらい。なのでいつ接触事故が起こってもおかしくない。これは秋田だけじゃなくて、日本全国そうなんです。
 高橋 全国?!
 小松 東京方面も。今まで熊の生息情報がなかったところからも、ちらほら

聞こえてきていて。熊だけじゃなく猪とか野生動物はみんな拡大している状況です。

高橋 何がどう変わって熊の活動地域が増えていつてるんですか？

小松 単純に人間の活動が落ちてくるから。

高橋 人間の山での活動が落ちてくるから？

小松 そうですね、山での活動も落ちてるし、人口も減ってるんですよ。もともと日本って熊も多いし人も多いんです。アラスカとかは日本よりもはるかに人口密度が低いところに熊が住んでいて、熊や野生動物優勢の地域、野生動物に人が合わせている。中国に行くと人間が圧倒的に多くて、熊は、ともすれば絶滅するかもしれない。秋田は人間の密度も熊の密度も高い。実は、日本って熊と人が、いるんだけどお互い見つからないようにうまく折り合いをつけて暮らしてきたっていう歴史があるんです。つまり熊が人間を避けてくれてたんですけど、最近はそれがちよつと崩れてきている。

高橋 均衡が崩れ始めてしまったんですね。

小松 そうですね。アラスカとかに住



む熊は、人間を見たことがない熊が多いんで、人間が怖くないんです。基本無視する。だから逆に危険でもなかったんです。日本はどちらも密度が高いけど、とにかく熊さんにとって人間は怖い。だから、勝手に熊が人間に会わないように避けてくれる。ところが最近、人間が山の中であまり活動しない。日本の人口の半分は都市圏にあるので、まず人間に会わないですね。あと昔はマタギさんも含めて山菜を採ったり熊を追ったり、なんだかんだ山の中で活動していたのが、そういう活動がなくなってくると、人間を避けなくなるので、こっち(里山)に熊が増えるんですよ。だから最近はおつうに昼間、人前に熊が出てくる。あともう一つは、人間がゴミを捨てていく、あるいは畑に熊の食べ物になる作物や果実があるけどそれを採らないでいると、結果的に餌付けになるんですよ。人間のニオイがするところに行くとおもしろいものがありつけるぞって覚えてしまつて、人間の生活圏に来るんです。一応まだ人間を怖いと思ってるんですけど、夜な夜な出てきてゴミ箱をあさつたりするようになる。

高橋 なるほど。昨日マタギの人たち

のお話をいっぱい聞いたんですけど、マタギの人たちが減っていることも関係あるんですか？

小松 マタギも関係ありますね。ただマタギだけではなく、農業においても周りの山林を上手に使う暮らしがあったうちは、ここからは人間の場所だよっていう主張になっていて、そこを逸脱している熊さんはマタギさんに追いかけられるという社会関係があった。でも最近山に山菜採りに行くんじゃない、スーパードに行くって買い物するわけじゃないですか。そうすると山に人がいなくなってくる。ましてや猟師さんも減ってきてるので、熊さんにとっては徐々に人間が怖くなくなっている。

高橋 うーん。

小松 ここは人間の領域だよっていうのはみんなやるんだけど、そのなかで人間は怖いよって教えるのはマタギのような猟師さんたちなんですよ。

高橋 うんうん。

小松 阿仁のマタギさんみたいな伝統的な巻き狩りが一番よくて、熊さんを人間が直接追い立てて怖がらせるっていう猟なんです。

高橋 昨日マタギをやっている若い男



子3人と話したんですけど、マタギは正直無くなる仕事かもしれないみたいなことも言っていて。でもなんとなく、無くしちゃいけない仕事な気がしたんです。マタギの人たちの宗教観というか、死生観というか、「授かる」という言葉や、山におじゃましますみたいな精神って、マタギの人たちはずっと持ってたわけじゃないですか。けど今その意識を持って山に入る人って、果たしてどれくらいいるんだろう。それよりも「熊怖いんだったら殺しちゃえば？」みたいに言っちゃう人のほうが多そうとか。でもそういうことじゃないってことをマタギの人たちは伝えてきていたのかもしれない。

小松 マタギさんたちもそういうことを意識してやっていたわけじゃなくて、単純に生活の中で当たり前のこととしてやっていたんですよ。

高橋 マタギのみなさんもそうおっしゃっていました。

小松 一番怖いのは、例えばもし街に熊が出て誰かにけがをさせました、あるいは小学校に乱入して子供を傷つけましたってなったら、絶対に殺せっていう派と、かわいそうだから絶対に殺すなっていう派に分かれる。どっちか

しかない。でも、こういう生活っていうのはどっちでもないんです。どっちの立場もわかるから、その間をなんとか探していくのが大切。

高橋 きっと、山は熊のものとか、町は人間のものとか、きれいに線を引けるものではなくて、その合間みたいなところにマタギさんがいたんですね。曖昧な部分、しっかり線引きするだけじゃなくて、僕らがもし熊に襲われるのが嫌なら、ちゃんとそういう関係を築かなきゃいけないんだろうな。



それもある意味で秋田的な発想かもしれないですね。人を襲った熊を「助ける」って言ったんだから。大したもんだなって思います。

高橋 そうですね。僕、「優」っていう名前なんですけど、優柔不断の「優」も同じ優なんですよね。だから、物事をバシっと決められないのが嫌で、20代のときは、ゼロか百かっていうのが好きだったんです。だったらやめればいいじゃんとか、だったらやろうよみたいな。だけど歳を重ねれば重ねるほど、その寂しさを感じていて、ゼロ

小松 その通りだと思います。
高橋 それでいうと、くまくま園はちょうど中間のところというか。人を襲った熊とか、他の場所では受け入れられなくなった熊とかを、ここでは受け入れているわけじゃないですか。でもそういう考え方って、今はだいぶ薄くなってしまった考え方だと思えますよ。
小松 たしかに。2012年に秋田の八幡平クマ牧場で熊が人を襲うという事故が起きて閉鎖されて、その後、秋田県が出資して、ここで熊を引き受けることになったんですけど、





か百でよかったらそれこそコンピューターでよくなるっていうか。そこに自分がいる意味っていうのは、意外とその間、白と黒の間の味わいみたいな部分にあるんじゃないかと思ったりして。

小松 例えば集団としてのマタギにはいろんな人がいるんですね。鉄砲のうまい人、勢子のうまい人、誰もがみんなどこかに役割があるので、いなくていい人なんていないですよ。それって相手が自然なので、自然って千差万別だからそれに合わせるためにはいろんな種類の人間がいたほうがいいんです。だから人を見るとときも物差しは一個じゃない。

高橋 まさに物差しが一個じゃないのが秋田の精神かもしれないですよ。特にマタギの場合は仕組みとしてマタギ勤定があったり。

小松 自分と波長の合う人とだけ付き合い合うのが一番楽でいいんだけど、それをやっていると、自然の中で生きていけない。ネットの中では生きていけるかもしれないけど。

高橋 今ちょっと、それありますもんね。自分と都合のいい人とだけ繋がれるようにしていくめっちゃめっちゃ便利なシステムがあるから。これはちょっと

違うかもしれないですけど、ライブに向かうために言い争いというか、擦れ合うこともあるんですけど、いいライブさえできれば、やっぱりみんな「よかった！」ってなる。人としてはあんまり好きじゃないけど、君のベースのプレイは大好きとか、人間的には嫌だけど、あなたが叩くドラムが一番歌いやすいとか、たぶんそれで成り立ってるバンドもけっこう多かったりすると思うんですよ。そういうのって確かにわずらわしいじゃないですか。でも、わずらわしいから一人でいればいいっていうのはちょっと行きすぎちゃってると思いますよね。

小松 これまでは人間を見たら逃げる熊しかいなかったけど、今はいろんな熊さんがいて、こっちもこの熊さんはどういう熊さんかなっていうのを見ながら行動を変えないといけないので。

高橋 たしかに、向き合わないといけないですね。この記事を読んでもらって、そもそも熊との付き合い方、熊との関係づくりみたいなことに意識を向けてくれる人が増えたら嬉しいですね。





戸鳥内ととりないの棚田（北秋田市）

秋田の自然 絶景スポット

標高300メートルの高地に約24ヘクタールの棚田が広がる戸鳥内。森吉山を背景に、5月下旬から夏は緑、秋には黄金色の稲穂が連なる田んぼを彩ります。

場所 北秋田市阿仁戸鳥内

お問い合わせ 北秋田市観光物産協会 TEL.0186-62-1851

SUPER VIEW

森吉山の樹氷（北秋田市）

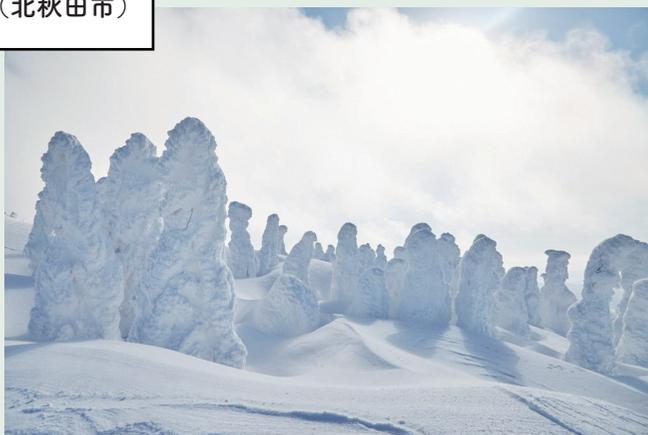
森吉山の冬の風物詩で、アオモリトドマツの樹木に雪や氷が付着して大きくなったもの。阿仁スキー場のゴンドラに乗り、山頂駅舎で下車して徒歩5分で鑑賞できます。

見頃／1月上旬から3月上旬

場所 北秋田市阿仁鍵ノ滝79-5（阿仁スキー場）

お問い合わせ

北秋田市観光物産協会
TEL.0186-62-1851



北秋田市をはじめ、各地に絶景スポットが点在している秋田県。思わず息をのむ、雄大な眺めや自然の芸術をお楽しみください。

ゴジラ岩（男鹿市）

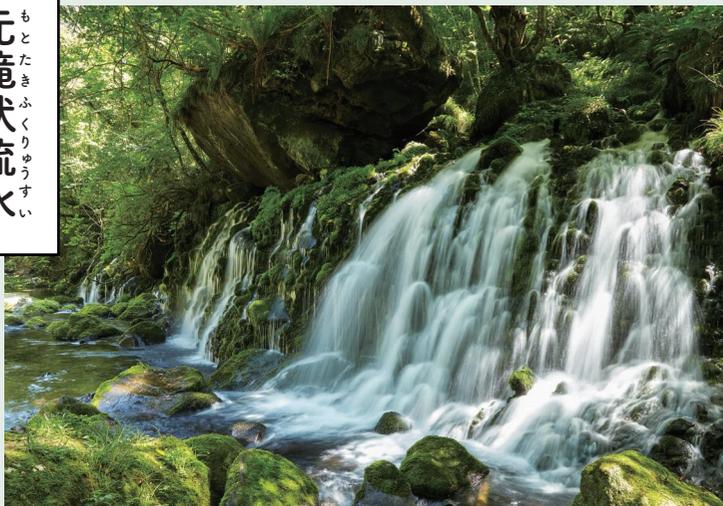


男鹿半島の南西に位置する岩礁地帯「潮瀬崎」にある岩。夕焼けになると、ゴジラが海に向かって火を噴いているようなシルエットが浮かび上がります。

場所 男鹿市船川港門前

お問い合わせ 男鹿市観光協会
TEL.0185-24-4700

もとたきふくりゆうすい
元滝伏流水
(にかほ市)



雨や雪が鳥海山に染み込み、長年の歳月を経て地表に現れた伏流水。落差5メートル、幅約30メートルの岩肌から吹き出す様は迫力満点です。

場所 にかほ市象潟町関

お問い合わせ にかほ市観光協会

TEL.0184-43-6608

はちまんたい
八幡平ドラゴンアイ
かづの せんぼく
(鹿角市・仙北市)



岩手との県境に広がる八幡平。その山頂付近の「鏡沼」では雪解けを迎える5月下旬から6月上旬、通称「ドラゴンアイ」が出現。残雪と雪解け水が龍の眼のような形になります。

場所 八幡平山頂付近

お問い合わせ

十和田八幡平観光物産協会

TEL.0186-23-2019

田沢湖観光情報センター フォレイク

TEL.0187-43-2111

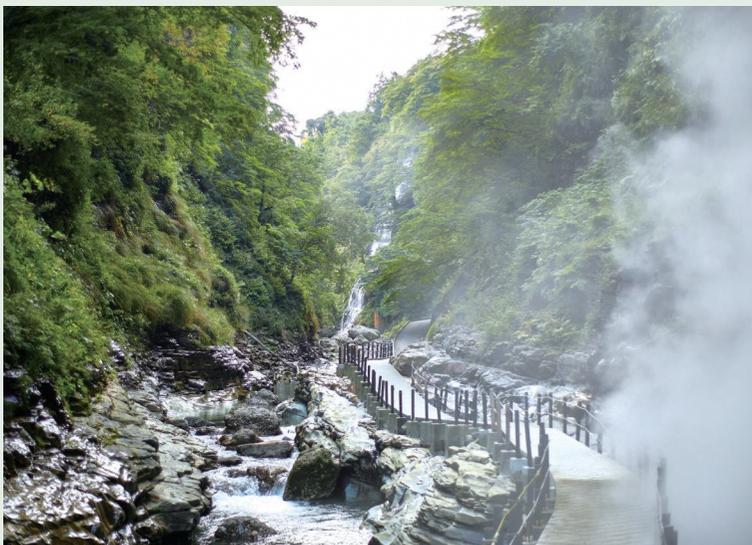
おやすきょう
小安峡 (湯沢市)

V字形の深い谷が長さ約8キロ続く小安峡。断崖の割れ目から高温の蒸気が轟音を上げて噴き出す大噴湯を見ながら渓流沿いを散策できます。秋田県屈指の紅葉の名所です。

場所 湯沢市皆瀬字新処

お問い合わせ 小安峡温泉総合案内所

TEL.0183-47-5080



伊勢堂岱遺跡

人と熊の関係について深く考えさせられた小松さんとのお話のあとに訪れたのは、フェス会場からも近い伊勢堂岱遺跡。縄文時代後期前葉（約4000年前）に造られた4つの環状列石を主体とする遺跡です。

遺跡に併設された伊勢堂岱縄文館で、学芸員の榎本剛治さん（45歳）にお話を伺いました。

榎本 この場所は、空港へのアクセス道路建設に伴う発掘調査で見つかったんです。県が遺跡の保存を決定したんですけど、工事を急いでたんでしょね。道路の橋脚が3つ未完成で残されています。しかしそれも4000年過ぎれば遺跡になるんじゃないかと。

高橋 謎の遺跡になりますよね（笑）。
榎本 そうなんです。ちなみに環状列石が4つも見つかっているのは全国でもここだけだということで、貴重な遺跡となっております。実はもうすぐ世界文化遺産になるんですよ。

高橋 おおっ！
榎本 秋田では伊勢堂岱遺跡と鹿角に



ある大湯環状列石の2つが入っていて、あとは青森、岩手、北海道の遺跡ですね。その17カ所で世界文化遺産登録を目指しています。

高橋 へえ〜。

榎本 これらの範囲で、同じような道具を使った、同じような遺跡が残っているんですね。これが県南に行くともったくストーンサークルが見つからないんです。

高橋 へえ〜、不思議ですね。

榎本 そうなんです。秋田県の人だったらわかると思うんですけど、県北と県南で全然文化が違うじゃないですか。もしかしたら縄文時代からそうだったんじゃないかと。

高橋 そもそもストーンサークルって、なんだったんですか？ お墓？

榎本 そうですね。ただ、それだけではなくてお墓の周りから、わけのわからない道具がいっぱい出土するんですよ。おそらく、先祖を弔うためにこの辺でマツリ、もしかしたら歌や踊りなどワイワイやっていた場所だったと思われるね。

高橋 へえ〜。

榎本 さっき環状列石が4つあると言いましたけど、それが北側のあるとこ



ろに集中してるんです。その場所にしか作りたくないという縄文人の意志を感じるんですよ。なぜかというところ、ここに立つと、白神山地が一望できるんです。

高橋 なるほど。素晴らしいロケーションなんです。だからそこに作ったんじゃないかと？

榎本 そうです。最近そういったストーンサークルと山並み、あと太陽の動きが関連してるんじゃないかとも言われるようになってきました。晴れた日には山並みがおわつと見えて、まさにステージのような。ストーンサークルは劇場だと言って研究者もいるくらい。



榎本 ここは出土品のコーナーです。縄文時代の人はお米は食べていないんですが、いろんなものを食べています。これはキノコ形土製品。いろんなものを食べてるにも関わらず形に残しているのはキノコなんです。何か特別な意味があったんでしょうね。毒キノコなんでしょう、それとも幻覚作用のあるキノコなのか、わからないですけど。

高橋 面白いですね。このちっちゃいのはなんですか？

榎本 耳飾りですね。



高橋 この文様みたいなのは？

榎本 特徴として、左右非対称の模様が多いんですよ。S字だったり。

高橋 何を思ってそれを書いたか、めっちゃ気になりますね。

榎本 そうなんです。気になりますよね。

高橋 気になります、とつても。みんな共通してじゃないですか。同じものを見てるのか、同じものを作ってますよね。

榎本 おっしゃる通り、これは重要な指摘で、こういう同じ模様を県北から北海道まで共有してるんですよ。

高橋 うわ〜ゾクゾクする。なんなん
でしょうね。

榎本 みなさん、変に逸脱するものは
作ってないんですね。こんな複雑な
書き方をするには、何か絵描き歌みた
いなものが存在するともいわれてい
ますね。

高橋 絵描き歌?!

榎本 そうじゃないと難しい、と。

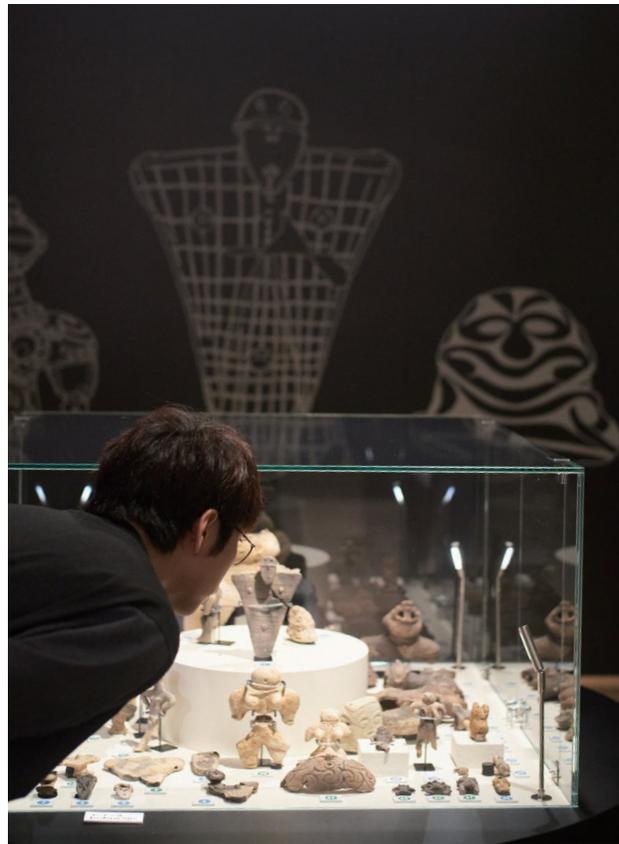
高橋 面白いなあ〜。



榎本 この1番と書いてあるのが先ほ
ど入り口にあった土偶です。

高橋 これが本物!?

榎本 ええ、本物です。ここの遺跡で
出たものと、いくつか市内の他の遺跡
で出たものも混ぜています。全部縄文



時代ですけれども、実は時計回りに時
代が少しずつ新しくなっています。
現代の車やファッションと同じく少
ずつモデルチェンジしていくんですよ。
逆三角形から足が生えてきて、妊娠、
出産を表すようなものも。この辺にな
ってくると、首飾りとか腕飾りとかを
つけ始めて。

高橋 ほんとだ。

榎本 中身が空洞になってきて、だん
だん目が大きくなって。これが有名な
遮光器土偶。

高橋 宇宙人しか見えないんですね
(笑)。顔の半分以上が目ですよ。

榎本 そうですね。これが最初に見つ
かった頃はゴーグルをつけているよう
に見えるということで、遮光器という
のがゴーグルのことなんですけど。

高橋 おもしろ。これって、こういう
服を着てたかもしれないってことです
よね?

榎本 そうですね。多少はデフォルメ
してるとは思いますけども。

高橋 すごいな、なんなんだろう。だ
って、これだけの造形力があつたら、も
っと人間っぽく作れるじゃないですか。
榎本 おっしゃる通りなんです。ま
ず、縄文人は基本的にまったく絵を描

かないんですよね。こういうものに力を注いで、これで表現する。そもそもこれらは、頭の中の精霊じゃないかっていう説もあるんですよ。

高橋 精霊！

榎本 男か女かというよりも、別の何かじゃないかなと私は思っていますね。そもそもなんでこんなものを作ったのかっていうこと自体謎ですよ。今みたいに米を作ってるわけじゃないんで狩りにも行かなきゃいけないし、明日の食べ物も探しに行かなきゃいけないし、それなのにこんな複雑なものを作ったり、川から石を運んでストーンサークルを作ったり。不思議ですよ。

高橋 不思議です。

榎本 だけれど、それが縄文なんですよ。

高橋 聞けば聞くほど不思議になっていく。面白い。

榎本 今日はないかなか鋭い指摘をいただいて。どうですか？ 考古学を勉強してみるのには。

高橋 たしかに、ちょっとハマリそう。いやあ、すごく面白かったです。



令和 3年 5月21日
伊勢霊仙庵 4021年
2021年 5月21日
15時25分 9秒

縄文遺跡が、 世界文化遺産 になる!?

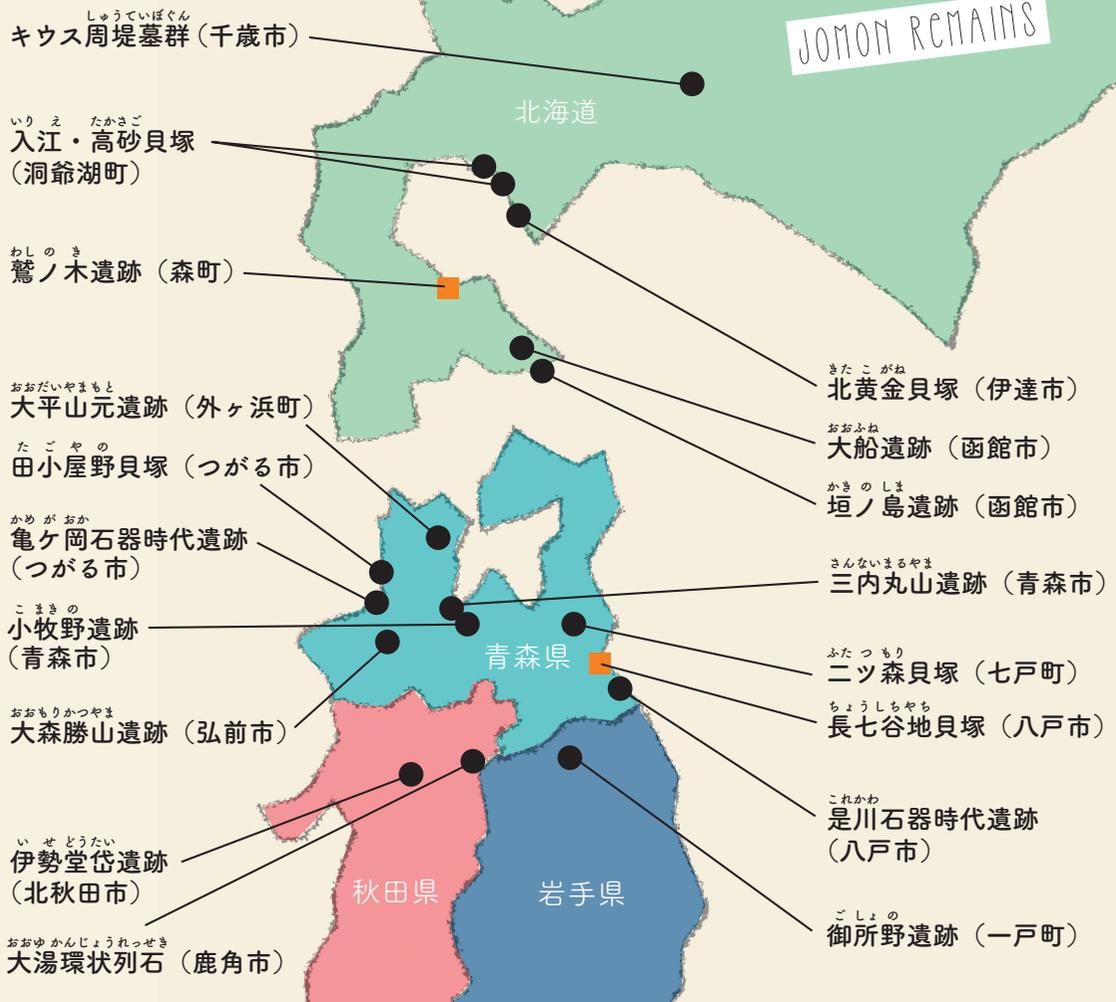
北秋田市の伊勢堂岱遺跡をはじめ、北海道、青森県、岩手県、そして秋田県には、縄文遺跡が数多く残されています。

そして今、これらの遺跡を未来へ繋げていくために、「北海道・北東北の縄文遺跡群」のユネスコ世界文化遺産登録をめざした活動が行われ、現在、登録候補となっています。

(2021年6月現在)

北海道・北東北の縄文遺跡群を構成しているのは、北海道6遺跡、青森県8遺跡、岩手県1遺跡、秋田県2遺跡の合計17の遺跡。また、関連する遺跡（関連資産）が北海道と青森県に1遺跡ずつあります。

■ 関連資産



世界遺産とは？

国際機関「UNESCO (ユネスコ)」の定める条件に当てはまる、人類共通の遺産のこと。地球の成り立ちや、人類の歴史から生み出された、形として残されているものを対象に登録することで、損傷、破壊等の脅威から保護し、保存していくことを目的としています。

縄文って、どんな時代？

「縄文」とは、土器の表面に縄を転がして付けた文様のことで、この土器が使われていた時代を「縄文時代」といい、紀元前13,000年ころから約1万年以上もの間続いたとされています。

ムラの誕生

旧石器時代の人々は、大きな獲物を追いかけて移動しながら生活していましたが、縄文時代になると人々は家を作り、集まって生活するようになり、竪穴住居という半地下式の家や広場、お墓、貝塚などが作られました。

ストーンサークル

遺跡では、いくつもの石を直径30〜50メートルの大きな円形に並べた「環状列石」ストーンサークルも見つかっています。これは、お墓や儀式を行うための場所と考えられています。

何を食べていた？

木の実や山菜、キノコなどの植物を採ったり、狩りでシカ、イノシシ、ノウサギなどの動物を捕まえたり、海や川では、魚を獲ったり、

貝を集めて食べていたとされています。

縄文人の二大発明

縄文人の二大発明といわれるのが土器と弓矢。粘土で器を作り食べ物を煮ることで、食べられるものが増え、貯蔵ができるようになりました。また、弓矢を使うことで、狩りの際安全に獲物をしとめられるようになりました。

縄文人は、海を越えた？

遺跡では、本州でしか採れない石が北海道で見つかったり、南の海でしか採れない貝が北海道で見つかったりしています。

このことから、縄文時代の人々は丸木舟で海をわたり全国規模の人やモノの交流が行われていたと考えられます。

JOMON GOODS

伊勢堂岱遺跡の資料館
「伊勢堂岱縄文館」ミュージアム
ショップには、かわいいグッズも！



板状土偶 ゆらゆら人形



笑う岩偶 ゆらゆら人形



板状土偶手ぬぐい

各遺跡周辺の施設では、遺跡の詳細や発掘調査の状況を紹介したり、土器や土偶などの出土品を数多く展示しており、ボランティアガイド等による案内なども行っています。遺跡の楽しみ方はさまざま。あなたなりの遺跡巡りをしてみてください！

大太鼓の館



北秋田市、道の駅「たかのす」に併設された大太鼓の館にやってきました。こちらでは、ギネス認定された大太鼓をはじめ、直径3・8メートルもある大太鼓など6台が常時展示されており、毎年7月14日、15日に行われる、綴子神社例大祭の大太鼓奉納の映像や音を大型スクリーンで楽しめます。今回は特別に、展示館の中で大太鼓を叩いてくださいました。



打ち鳴らされる大太鼓の音は地響きのような迫力！

綴子下町大太鼓保存会会長
鈴木祐悦さん（67歳）

鈴木 大太鼓保存会の会長をやっています、鈴木と申します。

高橋 叩いていただいて、ありがとうございます。

鈴木 大太鼓は初めて見られましたか？

高橋 初めてです。

鈴木 実はもともと、こんなに大きな太鼓じゃなかったんですよ。ここは昔から農業が盛んな地域だったんですけどもすごく水の便がわるかったんですね。それで、どうしても雨が頼りで、雨乞いの神事として鎌倉時代の後期から始



まりました。その当時は獅子踊りのお囃子として、小さな太鼓だったんです。それが雨を降らせるよう雷鳴に似たような音を出すということで、次第に太鼓が大きくなっていったんですよ。

高橋 へえ〜。

鈴木 昭和5年頃には、2メートル10センチの太鼓ができたんです。その当時、秋田魁新報さん調べでは秋田県で一番大きい太鼓だろうという話になったんですけども、その後、日本一の太鼓になって。昭和5年までは神社への奉納行事を上町、下町で競争して、どちらが先に奉納するかっていう、神事争いがあったんですよ。それで太鼓を破るとかいろいろなことがあって、昭和5年以降は1年ごとに交互で奉納することになって、神事争いはなくなっってしまった。それでどうするかとなったときに、太鼓の大きさを競うようになったんですよ。

高橋 へえ〜。面白い。

鈴木 下町が大きいのを作れば、負けたくないってことで上町がまた大きな太鼓を作る。その繰り返しで日本一の太鼓になって、昭和61年に世界一の太鼓ができて。平成元年にギネスに認定されたんですよ。太鼓の白い部分は牛



の一枚皮で作る世界一の太鼓というところで。

高橋 一枚皮なんだ。

鈴木 そうなんです。縁のところはつぎはぎになっているんですけども、白い部分が一枚皮。ですから、全国で探してもなかなか大きい牛がいなくて。北海道の帯広の牧場ようやく、ホル

スタインの種牛を2頭貰い受けることができました。

高橋 はあ〜つ。

鈴木 平成4年頃に上町が下町よりも大きい太鼓を作ったんですが、下のほうがつぎはぎになっていて一枚皮でできていないんです。それでギネスに登録してないんですよ。



高橋 惜しい。

鈴木 それで一応、下町が世界一の太鼓ということで、継続されています。

高橋 多少つぎはぎでも音色にはそんなに問題ないですよ。

鈴木 問題ないですね。

高橋 しかし、これだけ叩いてくださったから、今日こんなに雨降ってるんですかね？

鈴木 あっはっは！叩けば雨が降るんですよ。

